

# 空港編

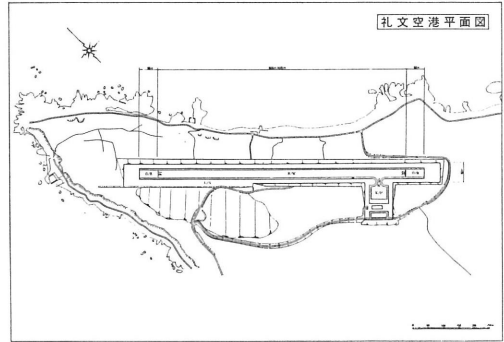
## (1) わが国空港の概況

### 礼文空港

礼文空港は稚内市の西約50kmの海上に浮かぶ礼文島にあり、島の北端に位置する。金田ノ岬の丘陵地に海岸線に沿って設置されており、わが国最北端の空港である。空港上空からは隣り合った利尻島のシンボル利尻富士を見ることができる。礼文島は人口約7,600人、従来北海道本島への交通はフェリーで稚内港まで3時間半を要していた。しかし荒天や流氷で定期船が欠航すると旅客や貨物は全く閉ざされ孤立せざるを得なかった。このため、空港設置の要求が起こり、昭和49年8月空港設置申請、同年12月設置許可、昭和50年3月、空港整備法に基づく第三種空港に政令指定されて同年6月着工、昭和53年6月1日滑走路800m×25mの空港が完成、供用開始した。

また旅客ターミナルビルは昭和52年9月着工で、昭和53年6月完成、空港の供用と同時にオープンした。建物規模は鉄骨造平屋建、延床面積263㎡である。駐車場は礼文町の委託管理で40台の収容能力がある。

昭和53年6月の開港と同時にVASISやNDBも供用開始し、日本近距離航空のDHC-6型機(19席)による礼文—稚内—札幌間の定期便が運航開始され、今日に至っている。現在、エア・ニッポンが礼文—稚内間を1日1往復運航している。年間乗降客数は



約6,300人、エプロン灯や予備自家発電設備も設置され、離島空港の使命を果たしている。

また礼文岳はとなりの利尻富士と同様に美しい山で「利尻、礼文、サロベツ国立公園」はわが国最北の国立公園として注目を集めており、さらに観光面においても礼文空港の果たす役割は大きい。

島民の大半は漁業に従事していることから、これら漁獲物の輸送にも空港の役割は大きく、年間貨物輸送量も約3トンの実績がある。さらに急患輸送には大きな威力を発揮する。

(編集部)

#### 空港諸元 礼文空港

基 本 事 項	空 港 名	礼文空港				種 別	第三種空港
	設 置 管 理 者	北海道				供用開始年月日	昭和53年6月1日
	空 港 の 位 置	礼文郡礼文町船泊				標点位置：北緯45°27'10" 東経141°02'35"	
運 航 状 況	年間着陸回数(回)	民間機	344	その他	14	計	358
	年間旅客数(人)	国内線	6,332	国際線	0	計	6,332
	年間貨物取扱量(トン)	国内線	3.1	国際線	0	計	3.1
基 本 設 施	空港敷地面積(ha)	滑 走 路	誘 導 路	エ プ ロ ン	運用時間		
	11.0 ha	長さ800m×幅25m (14-32)	長さ30m×幅9m	2,000㎡ DHC-6級 2バース	9:00~17:00		
ターミナル 諸 施 設	ターミナルコンセプト	フロントル方式					
	旅客ターミナルビル	263㎡ 一層方式					
	駐 車 施 設	1,000㎡(40台) 北海道管理					
	貨物取扱施設						
ア ク セ ス	船泊からタクシー5分、香深からバス35分、タクシー30分						